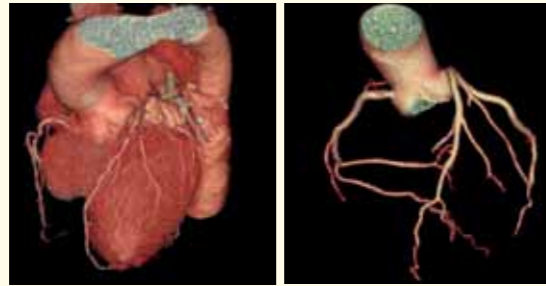


## 64列マルチスライスCT 撮影画像



64列CTで撮影、ワークステーションで加工した冠動脈画像



下肢動脈の血栓で軽度狭窄(黄矢印)、完全閉塞(赤矢印)している



手首や足の付け根などから動脈にカテーテルを挿入。画面を見ながら操作するため、熟練の技術が求められる

れています。医師や看護師、技師が先端治療を学ぶことで、チーム医療のレベルが高くなります。少人数でたくさんの方をこなすには、効率化を図らなければだめです。そうした刺激を受けたのが、大きな収穫の一つです。

**心臓だけでなく全身血管のトリートメントを実現**

**中田** 当院では、2010年7月から今年6月の1年間で、心臓カテーテル検査466件、心臓PTCA(経皮的冠動脈形成術)265件、PTA(経皮的血管形成術)77件を行っています。PTAの内訳は下肢が56件、頸動脈が2件、腎動脈が17件、その他が2件で、心臓だけでなく全身の動脈硬化を治療



**野田 亮輔 医師**  
のだ・りょうすけ ●1997年、札幌医科大学医学部卒業。函館五稜郭病院、市立室蘭総合病院等に勤務。2008年よりHHP J提携の心臓血管センターに勤務。11年4月より三愛病院。日本循環器学会認定循環器専門医

**中田 晃孝 副院長**  
なかた・あきたか ●1989年、東京慈恵会医科大学卒業後、同大附属病院に入学。2000年、三愛病院に勤務。循環器科部長。07年4月より副院長。医学博士。日本循環器学会認定循環器専門医

**濱田 英明 医師**  
はまだ・ひであき ●1996年、大阪市立大学医学部卒業。京都大学医学部附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、米国テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター等に勤務。2007年よりHHP J提携の心臓血管センターに勤務。11年2月より三愛病院。日本循環器学会認定循環器専門医

## 米国の心臓血管病院と提携し 循環器プロジェクトをスタート 地域啓蒙により心疾患などの早期発見と早期治療を目指す

**64列CTなどの検査で突然死ゼロを目指す**

**濱田** 05年に64列マルチスライスCTを導入し、患者さんを積極的に検査することで心筋梗塞の種を減らしてきました。発症してからどうこうするのはなく、早くから介入して血管をケアすることが大事です。

**濱田** 64列CTなどの検査により、患者さんの心筋梗塞による突然死が減りました。導入前の04年10月〜05年9月は、かかりつけの患者さんのうち5人ほどの方が突然死されていました。08年10月〜10年9月の2年間でたった1人、その1人も102歳の患者さんでした。

する方向へ向かっています。冠動脈に動脈硬化による障害があった場合、脳や体のほかの部分にも同様の障害がある可能性が高いといえます。全身の血管の動脈硬化の進行度を把握し、早期の段階で治療を開始し、万が一進行した場合のみカテーテル治療を介入するといったグローバルバスキュラトリートメント(全身血管のトリートメント)を行うことが大切だと思っています。

**野田** カテーテル治療の利点は、まず低侵襲ということが挙げられます。バイパス手術だと、長い範囲を切開したりするので、カテーテルは切らずに済み翌日退院というのも可能です。

**中田** 新技術も前向きに取り入れ、今では約7割が薬剤溶出性ステントによるカテーテル治療になっています。これにより、再発の予防が期待できます。



済陽 輝久 理事長

わたう・てるひさ ●1975年、東邦大学医学部卒業。78年まで同大学整形外科に勤務。日赤医療センター麻酔科、機子中央病院勤務を経て、85年に三愛病院設立。97年、医療法人社団松弘会理事長。88年に三愛病院

## 医療法人社団 三愛病院 松弘会

三愛病院では、アメリカの「アーカンソー・ハート・ホスピタル」と提携し、循環器プロジェクトを推進させた。チーム医療の充実を図りながら、地域の啓蒙を行い、心疾患などの早期発見、早期治療に取り組んでいる。

〒338-0837 埼玉県さいたま市桜区田島4-35-17  
診療科目：外科、整形外科、脳神経外科、内科、循環器内科、皮膚科、消化器内科、リハビリテーション科、放射線科、形成外科、消化器外科、泌尿器科、麻酔科(済陽輝久)、呼吸器外科、歯科、リウマチ科、心臓血管外科  
診療時間：平日 9:00~17:00/土 9:00~12:00 休診日：日・祝  
TEL: 048-866-1717(代) FAX: 048-866-1865 URL: http://www.sanai.or.jp



**野田** CT導入で、むだなカテーテル検査がなくなっています。

**中田** 狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患を疑ったら、最初から64列CT検査を行っています。冠動脈のつまりが高度に進行している場合のみ、心臓カテーテル検査が必要となります。

**野田** 一般市民講座などで市民に啓蒙することが大事だと思っています。地域の開業医の先生とは、年に2〜3回のペースで講習会を開いていく予定です。

**濱田** 地域の老人クラブなどで月に1〜2回のペースで勉強会を行っています。すでに在宅訪問看護事業所でお話しさせていただきました。

**中田** 早い段階から介入していれば、心疾患などの病気を防ぐことができます。

**済陽** 早期発見と早期治療により突然死を防ぐことができます。現在、放射線技師を17人に増員し、検査科スタッフも26人おられます。検査・治療体制の充実で、三愛病院の患者さんだけでなく、この地域における突然死がゼロになることを目指していきます。

**野田** 循環器内科は、カテーテル検査・治療だけではなく、心疾患の患者さんが重症化する前の早期発見と早期治療を目指して、勉強会を含めた地域のための活動に力を入れていくのが大切です。

**野田** 一般市民講座などで市民に啓蒙することが大事だと思っています。地域の開業医の先生とは、年に2〜3回のペースで講習会を開いていく予定です。

**濱田** 地域の老人クラブなどで月に1〜2回のペースで勉強会を行っています。すでに在宅訪問看護事業所でお話しさせていただきました。

**中田** 早い段階から介入していれば、心疾患などの病気を防ぐことができます。

**済陽** 早期発見と早期治療により突然死を防ぐことができます。現在、放射線技師を17人に増員し、検査科スタッフも26人おられます。検査・治療体制の充実で、三愛病院の患者さんだけでなく、この地域における突然死がゼロになることを目指していきます。

**野田** AHHでは、数少ないドクターで膨大な症例数をこなしています。その成功モデルを日本の病院と提携して地域に貢献しようというわけで循環器プロジェクトが07年から始まりました。最初は石川県の能登半島にある病院でした。

**中田** 今回の提携により、AHHに医師だけでなく看護師や技師が研修に参加しました。

**濱田** アメリカは動脈硬化や心臓の疾患が多い国で、最先端の治療が行わ

**HHPJと提携し循環器プロジェクト推進**

済陽 三愛病院は今年1月、HHPJ (Heart Hospital Partners of Japan) と提携し、共同で循環器プロジェクトをスタートさせました。HHPJはアメリカを代表する心臓血管病院である「アーカンソー・ハート・ホスピタル(AHH)」の臨床経験とチーム医療のノウハウを地域の基幹病院に提供することで、医療の質の向上、効率化を行うプロジェクトを日本の病院で行っており、当院が4カ所目の提携先となります。

**中田** HHPJとの提携で、AHHや国内の各提携先への研修、院内勉強会を開催することにより、患者満足度のアップにつながると思っています。

**済陽** 今年2月から濱田先生、4月から野田先生が常勤で勤務され、中田先生と合わせて循環器カテーテル治療を行う医師3人と、県内でも屈指の治療体制が整いました。